

令和6年度 学校アンケート集計結果（教職員）令和6年11月実施

1 自己評価 回答者56名（100%）

	評価項目	評価指標（評価の観点）	評価（％）				概 評
			A	B	C	分らない	
①	カリキュラム・ポリシーに基づく教育体制の整備，授業改善，学習評価の工夫改善及び進学型単位制の趣旨を活かした教育体制の整備	カリキュラム・ポリシーに基づき，効果的な教育活動ができたか	69.6%	30.4%	0.0%	0.0%	評価指標の1つ目を変更。肯定的な意見が100%となり、カリキュラム・ポリシーに基づき効果的な教育活動の実践ができていると言える。他の指標でも昨年度より評価が上がっている。新課程完全実施となり順調に対応できていると言える。「内規及び教育体制の整備」については、次年度以降に向け、更に本校の特性が活かせるよう整備していきたいと考えている。「主体的・対話的で深い学び」，「探究的な学び」を実践するための指導法の工夫（ICT機器の活用など）についてA評価の割合が増加（R5は35.2%）し、タブレットや電子黒板の活用が浸透し「質」の高い教育の維持に繋がっていると言える。
		進学型単位制の導入に伴い，内規及び教育体制を整備できたか	55.4%	41.1%	0.0%	3.6%	
		「質」の高い教育を維持するとともに「主体的・対話的で深い学び」，「探究的な学び」を実践するための指導法の工夫（ICT機器の活用など）を図ることができたか。また，学習評価の工夫改善を図ることができたか	57.1%	39.3%	1.8%	1.8%	
②	大学入試改革への対応，学力向上と進路意識の高揚を目指した組織的な取組の強化，幅広い教養と将来の自己実現の基盤となる心豊かな人間性と自己指導能力の育成	大学入学共通テスト，個別入試等の情報収集及び対策を検討することができたか。また，UJOKOZAの実施内容を改善することができたか	58.9%	37.5%	1.8%	1.8%	両指標ともに昨年度より評価が上がっている。UJOKOZAの内容を「幅広い教養と自己実現の基盤の育成」へとシフトし3年目、軌道に乗ったと言える。生徒からの要望や提案に可能な範囲で応じており、継続していく方針でいる。外部講師の効果的な招聘も組織的に進めており、多岐に渡る内容で、生徒の進路意識・選択を高めることに繋がっている。大学入試における総合型選抜入試が占める割合は年々高くなっており、結果は良好である。UJOKOZAや「総合的な探究」、「自由研究」などが効果的に機能し、好影響を与えていると思われる。
		幅広い教養と将来の自己実現の基盤となる心豊かな人間性と自己指導能力の育成に取り組むことができたか	62.5%	35.7%	1.8%	0.0%	
③	自ら課題を見つけ、方針を立て深く考察し、自ら発表する「探究力」の育成	「総合的な探究の時間」における探究活動を充実させ，3年間の連続性のある計画的な実施をすることができたか	58.9%	39.3%	0.0%	1.8%	いずれの指標でも昨年度より評価が上がっている。探究活動では、研究分野が幅広くなり、生徒のスキルは年々向上している。一方、教育課程編成の一部変更により、教科「情報」の履修が1年次から2年次になり、1年次生ではICT活用スキルの不足が懸念された。学年と情報係が連携し指導したことで、研究やデータ分析の手法など探究の基本をしっかり学ぶ場を設定した。昨年度評価が下がった「自由研究」への積極的な取組において、B評価が増加しC評価は激減した。「自由研究」希望者に対する年度初めの丁寧な指導の結果であると思われる。
		本校特有の「自由研究」への積極的な取組を推進することができたか	30.4%	62.5%	1.8%	5.4%	
		あらゆる教育活動において、探究につながる授業及び諸活動ができたか	51.8%	48.2%	0.0%	0.0%	
④	家庭と連携した生徒指導や教育相談の充実，学校ホームページ等による保護者・地域への積極的な情報発信	生徒の情報の速やかな把握と共有化及び保護者や関係諸機関との連携強化を図ることができたか	67.9%	28.6%	1.8%	1.8%	両指標とも昨年よりAの割合が更に増加した。「生徒情報の速やかな把握と保護者や諸機関との連携強化」で、C評価は減少した。多様化した生徒が増加する中、保護者や諸機関との連携強化は今後も迅速かつ丁寧に継続していく。感染症の流行が時々みられるが、感染防止対策を徹底しており、生徒の活動を継続できている。何より、保護者等の理解があり、連携できている結果であると言える。
		部活動の適正な実施と不断の見直し・点検，コロナ禍における感染防止対策の継続，ヒヤリハットの共有等が適切に行えたか	67.9%	30.4%	0.0%	1.8%	

評価基準 A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する D：分からない

令和6年度 学校関係者評価結果（学校評議委員5名）令和7年1月実施

・各種行事、部活動を含めた教育活動全体が生徒の学習指導・進路学習等に大いに寄与していると感じた。指導される先生方のご労苦を察するところですが、それにより生徒の主体性が育まれており、今後も「質」の高い教育の維持と課外活動の充実を継続してほしい。 ・3年次生への進路指導は手厚く行われており、特に進路検討会で一人ひとりの進路を検討されており客観的な見方に繋がる。外部講師の進路講話などにも有意義であり、自己指導能力が育成されている。 ・探究活動や自由研究における研究内容は多岐にわたり奥深く、プレゼンテーション能力が養われ「探究力」の育成となり、有益な学習活動を支援できていると評価できる。 ・アンケートでは、保護者及び生徒も多くの項目で満足している。「入学して（させて）よかった」との質問項目の否定的な回答がなく、何よりである。また、「社会のルールを守って行動している」と生徒・保護者ともに捉えており、宇女高生として誇りを持っていることがうかがえる。今後も自主性を重んじながら判断・行動できる生徒を育てていきたい。 ・UJOKOZA(自由参加型となり3年目)は幅広いテーマ・内容の「学びの場」として定着した。講座日程の調整・内容の追加など、要望を取り入れ実施されており、生徒の進路選択にも好影響を及ぼしている。今後も先生方の負担にならない範囲で進路希望の実現を支援してほしい。公開可能な講座において、近隣高等学校生徒の参加を募ってはどうかのご意見を頂いた。今後、検討したいと思う。 ・各行事や部活動での活躍はさすがであり、生徒さんの意欲の素晴らしさと、教職員の熱意・愛情の成果であると感じた。コミュニケーション能力の養成に繋がるので、様々な経験をさせていっほしい。 ・先生方が生き生きと活躍できる職場環境づくりを目指し、生徒が安心して勉学に励める環境(物心両面で)づくりに取り組んでほしい。
